詫間中学校学校通信　～発信！67年目の「初心（所信）」～
浦島伝説
平成25年6月3日
第 16 号

「全力学習」が未来を変える

あの日からもう１週間が過ぎました。全校生徒で創り上げた感動の「全力体育祭」は、もうすでに遠い過去のことのように思え、懐かしい感じがします。そして、今日から、６月の学校生活がスタートしました。

春に体育祭を移行してからの過去２年間、体育祭が終わった６月に学校生活が乱れる傾向がありました。“体育祭燃え尽き症候群？”、それもあったかもしれません。目標を失った時に、心も行動も乱れるのです。

でも、今年はちょっと違います。確かに、授業中の態度や夏服の着こなしなどにおいて、気のゆるみが見られる生徒もいますが、学校全体としては落ち着いています。これは、全力で体育祭に取り組んだからこそそこで学んだものが、生活に生きている証です。今度は、体育祭に向けた“全力”を学習に向けましょう。「昨日から学び、今日を懸命に生き、明日への希望を持て。大切なことは問うことをやめないことだ」（アインシュタイン）という言葉が心に響きます。そして何より、「OVERCOME MYSELF ～全力が未来を変える～」は、生徒会スローガンとして、この１年間、私たちを支えてくれる言葉なのです。

なお、２階の廊下に体育祭の写真が大きく掲示されています。これも私たちに元気をくれる１枚であり、その上に「努力の水があふれた瞬間」というタイトルもついています。そこで、“努力の水”と同じ内容の文章をいくつか紹介します。「全力学習」の参考にしてみてください。

★　道は徐々には開けない。突然開けるのだ。

昔、デールカーネギーというおじさんがいて、「道は開ける」と教えてくれた。やがてそれは間違いだと気付いた。カーネギーさんがウソをついていたのではなくて、大切なことを言い忘れていたのだ。道は開けるには開けるが、徐々に開けるのではなくて、「ある日突然開ける」ということだ。少しづつ開けると思っていると、毎日がゼロの連続だと続けられない。でも突然開くのなら、毎日がゼロの連続でも笑ってられる。ある日、突然電話がかかってくる。それが突然開く時だ。**【中谷彰宏】**

★　あと１m

99mまで掘って、あと１mを前にして放棄した人はゴマンといる。さて、100m掘れば原油が出る。しかし今が99mなのか30mなのかは、自分には見えない。ましてや掘って行くにしたがって、精神的な疲労や資金、人の協力も厳しさを増してくる。明らかに、掘り始めよりも目的に近くなった方が辛いのだ。掘り方を変え、掘る方向も変えて、休みながらかも知れないがとにかく掘りつづける。いつ100mに達するのかが分からない、だから面白いのだ。**【石油王・中野貴一】**

★　努力をどう考えるか

子どもの「努力のメカニズム」を明らかにしておく必要があると思います。子どもたちができなかったことができるようになるときは、何もしないでいて「あっ」とひらめいてできるようになるわけではないのです。できない、できない、できない・・・が続いていて、あるとき急にできるようになるのです。これはひらめきが訪れるのではなくて、できなかった間にずっと蓄えられた見えない力があるわけです。努力することによって見えない力が蓄積されて、あるときそれがあふれ出す。そのときに、できるようになると考えるとわかりやすい。できなくてわからなくて、努力しているときはつらいですよね。でも、この努力のメカニズムがわかっていれば、子どもたちはつらくても我慢して取り組むことができます。できなくてあきらめてしまう習慣を子どもの中に作ってはいけないのです。できない状態が続いているけど、「努力している間、自分の中にたまっている見えない力があるのだ、それが限界点までたまると、できるようになるのだ」ということを、子どもたちに徹底させる必要があります。

【「子どもも親も幸せになれる校長先生の言葉」生活文化編集部編(集英社)から抜粋】

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆　新しい先生の紹介　◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

今日から高田陽子先生が勤務されます。１年生英語科の指導と１年２組の副担任を担当していただきます。また、６月２１日までの３週間、西川裕次先生（技術・家庭科）と横山穂菜実先生（社会科）が、教育実習生として一緒に生活します。２人の先生にとって、みなさんは“はじめての教え子”になるはずです。